カルメル
霊性センターニュース

聖ゲオルギス

2016 年 9 月　　323 号

目次

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・１７

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

名古屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

北陸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・・・・・・４４

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５

心の泉

第三巻

第二章　真理は、静けさのうちに私たちの心に語る

２　人間の言葉

預言者の言葉は、高く響きわたっても心を引きつけません。美しく語るけれども、あなたが沈黙しておられるなら、人の心を燃え立たせられません。彼らは文字を伝えますが、その意味を悟らせるのはあなたです。彼らは奥義を告げますが、あなたはそこに隠された真理を示してくださいます。彼らはあなたの掟を告げますが、あなたはその掟を守るように助けてくださるのです。彼らは道を示しますが、あなたはその道を歩み続ける力をくださいます。彼らは外部に働きかけますが、あなたは心を照らして教えてくださいます。彼らは地面に水をそそぎますが、成長させるのはあなたです。彼らは言葉を叫びますが、あなたは聞く者に悟らせるのです。

３　主よ、お話しください

それでは、モーセではなく、永遠の真理の主である神よ、あなたが私にお話しください。私は救いの実を結ばずに、死ぬことを望みません。もし私が、外部の言葉だけで教えを受け、内部で燃え立たなかったら、きっとそうなるでしょう。言葉だけを聞いて実行せず、知っていても愛さず、信じても守らなかったら、審判を受けるでしょう。

「主よ、お話ください。あなたのしもべは聞いています」（サムエル上３・１０）。あなたは「永遠の生命のことばを語られる」（ヨハネ６・６８）からです。私の心を慰め、私の生涯を改め、永遠にあなたをほめたたえるために、主よ、私にお話しください。》

いつくしみの特別聖年を生きる　　－９月－

神のいつくしみへの

果てしない望みは

わたしの宝です

～リジューの聖テレーズ～　＊

使徒パウロがローマに移送される途中、船が難破しました（使徒言行録 27～28 章）。不運きわまりない出来事でした。そして、再び出航できるまで、３か月もマルタ島に滞在しなければなりませんでした。けれども、その間、パウロはキリストの教えを伝え歩きました。こうして、マルタ島にキリスト教は広まったのです。今までキリスト教国と認識されていた国々で「宣教」の必要性が嘆かれている現代、キリスト者が８０％とも言われる小さな島のかつての出来事はまさに神のいつくしみのみ業でした。わたしたちが嘆く「不運な出来事」から、新しい「何か」が生まれ出ることがあるのです！　神のいつくしみの愛に希望し、神のみ手に委ねて生きるなら。神はすべての人の救いを待っておられるのですから。

「五大陸、もっとも遠い島々までも、そして幾年かの間だけでなく、この世の創造のはじめから世の終わりまで宣教師でいたい」と果てしない望みをいつくしみの愛に希望した“小さな花”テレーズ。彼女の命日（いのちの日！）は 9 月 30 日です。わたしたちの日々の生活での「不運な出来事」も神のいつくしみの愛のうちに信頼、希望して人々におん父のいつくしみの愛の証し人となることができますように。

伊従　信子（いより　のぶこ）
ノートルダム・ド・ヴィ

＊『いのちの道』写真と文：伊従　信子、　サン・パウロ社

人を赦す（33）

九里（くのり）　彰

憎しみの連鎖を断ち切るために、アメリカの若い女性は、自らの十字架を担いました。伝道師としてフィリピンにいた自分の愛する両親が日本兵にスパイ扱いされ、斬殺されるというむごい事実を受け入れ、憎んでも憎みきれない日本兵を赦したのです。

どうして、彼女は十字架を担うことができたのでしょうか。色々考えられますが、それは、彼女が十字架上のキリストの姿を幼い時から見ていたからではないでしょうか。憎しみに憎しみを返さない、愚かなまでの神の愛を、両親を通して知っていたからだと思われます。「目には目を、歯には歯を」というこの世の正義がふりかざされる時、憎しみの連鎖は断ち切られることはありません。しかし、十字架上のキリストの姿は、争わず、戦わず、敗れていくばかりです。ガンジーは非暴力主義を唱えましたが、何よりもキリストの十字架こそ、非暴力主義の最たるものでしょう。キリストは逃げることもできたのに、進んで受難に向かい、十字架に上ったからです。

本会の奥村一郎神父も、十字架のキリストの姿の中に、単なる人間の愛を超える神の愛の輝きを見ています。

> イエスの「極みまでの愛」（ヨハ 13・1 参照）とは、「極みさえも知らぬ極みの愛」なのである。自分を救うことなど念頭にさらさらない。あるのは、愛する他者を救うことだけ。…真の愛、極みの愛というのは、自分を救えない愛である。「他人を救ったのに、自分を救えないのか」という、祭司長や律法学者たちの嘲弄のことばそのものが、まさしくイエスの愛の本質を顕現する。（『神とあそぶ』1999、137～138 頁）

普通の愛は、エゴの上にあります。まずは自分であり、自分への愛、自己愛の延長線上に、家族や故郷や民族や国家があります。国家や民族への愛も、隣人愛や家族愛も、自己愛で汚染されています。自分をぬきに、純粋に他者を思う愛は、「他者を救うことだけ」、「自分を救えない愛」だということは、実に言い得て妙です。多くの場合、他者への隣人愛的行為の裏には、人に見てもらおうとする自己愛がへばりついています。（続く）

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（105）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

人をえこひいきせずに

十字架のヨハネは、修士たちに、司祭として奉仕に出かける際には、キリストの血によって**贖われた人々の霊魂**の世話をするのだと、絶えず忠告していました。そう考えることによって、人をえこひいきしたり、人からの評判を得ることなどを避けることができるでしょうと。そして、彼がこのことを細心の注意を払って完璧に行なっているのを、他の者たちは見ていました。どのように、どこまで他者のために惜しみなく働いていたかについては、沢山の証言があります。

セゴビアに滞在していた時（1588－1591）のことに関しては、次の証言がすべての人に役に立つでしょう。「…彼は深い信仰のうちに、人をえこひいきすることなく、すべての人のところへ出かけて行きました。なぜならこの証人は、彼が一人の哀れな女性の祈りや霊魂の事柄について相談にのっていたことを知っているからです。それも多くの機会と多くの時間を使って。なぜならこの証人は、この女性をよく知っていたからです。同じことを彼は、あらゆる種類の人々に対しても行なっていました。また彼の内には、それによって神を喜ばせようとすること以外、他の目的はまったくないことがよく分かりました。というのも、この証人は、しばしば、霊魂の世話と相談に出かけるために、彼が遅く食事を取る不便さや不自由な思いをじっと耐えているのを、見ていたからです」。

年間第２３主日

「自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、誰であれ、私の弟子ではありえない」(ルカ１４：２５～３３)

イエスの弟子でなくイエスに従う者であることもできます。かつてある人が大学者にある若者について話していました。彼は言いました「ジョンはあなたの学生だったと言っています」。学者は「彼は私の講義に出席していたかもしれないが、私の学生ではないですね」と答えました。同じ差異が教会においても言え、イエスに従う者がたくさんいても真の弟子は少ないのです。イエスを見出した者はすべての状況において果たすに値する価値を見出したのであって、どんな苦しみの中にあっても愛の交わりをするのです。十字架を担う者は、まず御自身十字架を担われたイエスに従っているのです。

だから私たちは日々の生活を、キリストの弟子であるための必要な条件として受け入れ実行することによって、日常をキリスト教化しなければなりません。日々の仕事を神のほまれと栄光のために捧げるなら、絶えざる祈りとなるでしょう。私たちは毎日神のために働き、神に一歩一歩近づこうとしています。正直に働いても生活がもっと苦しくなるのなら、枕する場所もなかった主を思い出すべきです。私たちの神は私たちを忘れているのではなく、困難の時は最も近くにおられるのです。

他方、私たちの中で生活が順調に行っていて、家族の中に問題がなく、お金にも困っていない人は自分の良心をよく見つめることができません。もし担うべき十字架がないようであれば神を忘れているのかもしれません。経済的成功がキリスト者として守るべき正直さに基づいていないかもしれません。それゆえ真のキリスト者になるためには、生活全体においてキリスト者として生きなければなりません。この世が究極の家を目指す地上の旅路を妨げないように配慮が必要です。この世を用いるべきであって、この世に使われてはいけないし、神への道を妨げるものとなるなら進んで捨て去らなければなりません。忍耐によって戦いに勝つことができるでしょう。日々十字架を担うのは、十字架が無理やり私たちを進ませるからであると言うよりキリストのためであるべきです。

第２朗読に見る聖パウロや他の多くの聖人たちの人間性を考えてみてください。彼らが行なったことを私たちも出来ます。彼らと同じ人間性を私たちも持っています。わたしたちのごくありふれた日々の仕事を心をこめてやりましょう。いつも神の恵みの中に留まるように努めましょう。典礼暦の列聖された聖人たちの中に私たちの名前は入らないでしょう。しかし天上の暦の中に私たちの名前を入れることは可能です。

(Beatrice)

年間第２４主日　　（ルカ１５：１～３２）

本日の福音には、圧倒的な神のお姿が示されています。愛する神、赦す神のお姿です。

最初の二つのたとえ、「見失った羊」と「無くした銀貨」のたとえは、神の憐れみの大きさを表わしています。「放蕩息子」のたとえには、天の御父の非常に美しい姿が描かれています。

これは実にすばらしい物語で、私たちは通常「放蕩息子」、あるいは無駄使いの息子の物語と呼んでいます。しかし、度々指摘されていることですが、これはむしろ気前のよい寛大な父の物語です。中心は父の姿です。父は無駄使いする弟に寛大に与えます。この息子は最後には我に返り、恥を忍んで帰宅し、父の深い愛情に圧倒されます。「死んでいたのに生き返った」息子の帰宅を祝うのにこれ以上のものはないのです。これは、私たちが見倣うにはむずかしい愛と赦しの姿です。しかも、神は私たち一人ひとりにも同じことをしてくださっています。私たちはほとんど、善良な兄、褒美などは考えないで父に従順に仕えている兄に、自分をあてはめます。当然、兄は弟が得た特別の扱いに憤慨します。兄はこのことを理解できず、兄はこれら全てを憎みます。しかし、私たちの神は寛大です。メッセージははっきりしています。神はあらゆる人を愛し、ご自分に立ち戻ることを望んでおられます。

イエスはこのたとえで、神の寛大さと憐れみ深さを教えています。私たちの天の御父は、扉のところで私たちが来るのをいつも待っておられます。ごミサのとき、イエスの御からだと御血にあずかり、赦しを共にすることで、私たちはイエスからいつも同じ招きを受けています。弟は浅はかな生活態度から立ち返り、父の家に戻り、責任感のある従順な息子になる必要があります。私たちは人生において、他の人のほうが特典を与えられていて、自分より利益を得ていると度々悔しがります。度々私たちはこのたとえの兄のように傷つき、憤慨します。私たちは肝心な点を見落としています。与えられた状況において、誰がより多く値するか、あるいはより少ない値であるかについての問題ではないのです。これは、無条件に愛する能力、基本的な尊厳と全ての人の平等を信じる能力なのです。

このたとえで一番美しい箇所は、父が兄に「わたしのものは、全部お前のものだ」というところです。私たちの天の御父は、私たちにも同じように「わたしのものは、全部お前のものだ」と言われます。これは、非常に美しい約束であり、素晴らしい招きであります。このたとえを読んで、私たちも又、外に留まっているか、中に入って御父の祝宴を楽しむかを選択することになります。「わたしのものは、全部お前のものだ」という御父なる神からのお言葉は、最上の幸せのお申し出です。　　*(Sr. Paulina)*

年間第２５主日

（ルカ１６：１－１３）

今日の福音では、不正な管理人の話が語られています。様々な解釈がある様ですが、伝統的なものとしては、管理人の不正は、主人の財産を不当に掠め、自分自身の危機にあたって負債額を誤魔化したから、その様な中で主人は、機敏に対応した賢さを褒めたというものでしょうか。

他の解釈としては、律法では同胞からの利子を取ることは禁止にも拘らず、借金額に利子分を上乗して証文が作られていたが、解雇危機にあたり、律法のあり方に立返り、不正部分を書き直し、借りた人に感謝され、借りた人は主人にも感謝するという状況を作り出したことを褒めたというのもある様です。

私たちは働いて糧を得、蓄えたり使いながら、神様が創造した世界で暮らしています。様々な形で沢山のものを、日々の糧、生きる糧としていただきながら、生活しています。その様な中で私たちはどの様に歩んでいるでしょう。私たちが今手にしているものは、それはどの様にして得たものでしょうか、またどの様に用いているのでしょうか。

どんな召し使いも、２人の主人に仕えることはできない･･･とイエスは言われました。大切なものは一体何でしょう。神様でしょうか、それともそれ以外の何かでしょうか。何を大切にしているかによって、私たちの生き方は必然的に変わってくるでしょう。

私たちキリスト者の歩みは、神の子として、神の国の完成に向かっての歩みでもあり、いただいたものを大切にしながら、人も大切にしながら歩んでいく歩みなのでしょうね。いつか私たちは神様から呼ばれる時が来ます。人生の精算の時に困ることのない様に、私たちの生き方を振り返り、今からあらためる必要があるのかも知れません。

過去がどの様なものであったとしても、失敗してしまったとしても、神に立ち返って神様を大切にし、人を大切にしながらともに歩む、そんな歩みができればと思います。私たちが神の子として、イエス・キリストに従う者として、相応しく歩んでゆくことができます様に。日常の身の回りの小さな事柄を一つ一つ大切にしながら、忠実に歩んでゆくことができます様に。

（Fr.　古川利雅）

年　間　第　２６　主　日　（ルカ 16：19—31）

今日の福音は「金持ちとラザロ」の話として知られている譬え話で、イエスがファリサイ派の人々に向けて話されたものです。金持ちの名前は記されていませんが、極貧で病気の乞食には名前があります。ラザロ、これは“主の貧しい人”という意味で、世間の常識を覆すイメージのものです。

ルカ福音書は、貧しいラザロは病気で起き上がることも出来ず、犬が来てそのできものをなめる痛みに耐えていたと伝えています。薬も与えられず何の手当も受けずにいたことは明らかです。金持ちの門前で金持ちの残した食べ物のかけらでもと待っているラザロを金持ちは気にも留めず、その願いにも心を向けませんでした。やがてラザロは死に、天使たちによって天の国の宴席にいるアブラハムの近くに連れて行かれました。金持ちも死にましたが、葬られ陰府に送られ、そこの炎の中で悶え苦しんでいました。目を上げるとアブラハムと共に宴席についているラザロが見えたので自分の苦しみを訴え、必死で助けを求めます。アブラハムは、死んでからは、この世で多くの苦しみに耐えたラザロは慰められ、多くの良い物で満たされていた金持ちは苦しまなければならないことを説明します。このアブラハムのメッセージは、この世の終わりに、イエスが再臨されて行われる最後の審判のメセージを思い起こさせます。最後の審判のとき、イエスはこの世の逆境にある人に愛の心を向け助けた者に大きな報いを与えると約束されています。これらの苦しんでいる人々にイエスご自身を同一化して話しておられるのです。

この話の中心に食卓があります。これは神の国のシンボルであり、聖体祭儀のための食卓、祭壇を示唆しています。わたしたちが毎日曜日、または主の招きに応じて毎日でも近づくことができる食卓です。金持ちは自分の有り余る食卓から何でもラザロに与えることができたのに、またラザロの病身を気遣うべきでした。これは“チャリティ”のレベルのことで、ほとんどの人がすべきであると感じていることです。

今日の福音には繊細で見逃してしまいがちなイエスの警告、気付いてほしい願いがあります。イエスは今日、今、この福音を目に、耳にしたわたしたちに、逆境にある人々に心を向け救済の手を差し伸べてほしいと懇願されます。彼らも神の子どもだからです。死後の世界での貧しい人と富んでいる人との隔たりはこの世での隔たりとは比べられないほどの大きなものであるとイエスは強調されます。わたしたちには絶え間なく響くイエスのみことばと教会の教えがあります。神によって創られた全ての人には真理である神のことばを聞くための必要な機会が与えられていますから、イエスはこのために働いてほしいのです。日々祈りのうちに信仰を深め、教義を学び直し、イエスのみことばを宣べ伝えましょう。一人でも多くの人にイエスとの出会いの機会を提供しましょう。キリストの光に導かれ、常に主と共に、主の呼びかけに応えて働くことが出来ますように。

（Sr. Paulina）

「底知れぬ謎に対ひて・・」　　石原淳子

「ちょっと複雑な気持ち・・」と友人から電話がありました。
誕生日に、息子のお嫁さんからきれいな花束と一緒に付録ですと言ってエンディングノートを贈られたといいます。
友人は若くして夫を亡くしましたが、80歳をこえた今現在は、息子家族と二世帯住宅に同居していて、仲良く幸せに暮らしています。
エンディングノートとはその名のように、終わるにあたっての書きとめというのでしょうか、私は実物を見たことはないのですが、近ごろ何かと話題に上り巷に盛んであることは知っていました。　友人の話によるとノートには、自分のこれまでの歩み、今気になること、家族友人の連絡先、資産、貯金通帳クレジットカードのことなど、更には終末医療、延命治療への意思表示、葬式お墓に至るまでを書きとめる立派なノートだそうです。　書いていただいていると助かりますと、お嫁さんからみじんの他意も悪気もなく手渡されて、たしかに残された者には便利とつくづく感心したそうです。
「自分の整理整頓だと書いていたら、死に方のところで手が止まって電話したのよ」「終末医療の欄で、あなたはどの辺りでどんな死に方をしたいですかって具合なのよ。それもマークシート方式よ」「人生は選択で成るっていうけれど、死に方も今のうちに選んでおくわけよ。すごい遺書」「お医者さんが大変。お医者さんに申し訳ない気がする」「進歩発展もいいけれど情けない時代になったわね」「チューブに繋がれて生命を維持するのも時代を生きる一員の連帯とも思うよ」「早産だったひ孫はたくさん器械をくっつけて生きられたのよ」「保険証の裏見てごらん、臓器提供の意思を書くのよ。意義は別としてやっぱり異様な感じ」
しばらくの時間、あれやこれやと勝手に言い合って、嘆き合って、何とか気を済ませ、結局友人は「状況は千差万別よ。思い考えも状況によって変わるものよ」と、その欄はいつでも消せるように鉛筆で書いておくということでした。

何においても便利になるのはありがたいことなのです。　滞りなくものごとが運んでいくことは自分にとっても気分がよく、また、周囲にも都合がよいことに違いありません。　しかし、よくよく考えれば、すべてが合理的に整いすぎるのも何とも寂しい気がします。
私は書き置きの類は何ひとつ用意していないのです。　ほんとうは友人のようにきちんと整理し、終末医療の表明など備えておくべきかとも思うのですが、なぜなのでしょうか、どうしても気持ちの中に入ってこないのです。　自分の思いが届ききれない感じがあり、書き置きの手立てをどうやって得てよいのかが

わからないのです。

ただ、こんなことは思ってみます。

私が死んだとき、皆、右往左往して、てんてこまいして、困り果てて、疲れ果てて、天を仰いで嘆息をもらして、それから少しだけしょんぼりしてほしいなと。　そして、心の内に想うものが浮かんであるなら、それが私の遺言だと。

私は、たとえ死に方はどのようであろうとも、死ぬのは至上の幸福のうちに死ぬのだと確信しているので、きっとこれだけは必ず周囲に伝わるはずと思っているのです。

一人の人がこの世から旅立つことは、とても不合理なことに思います。　滞りなく事が運ぶというのとは、何かが根本的に違うと思うのです。　自分で事を運んだりはできないのです。　すべてを放し委ねることでしか成り立たないと思っています。　選択という範疇には当てはまらないのです。

何もかもが可能へ可能へという時代となって、終末までもあれこれ選択するという時代となって、私たちの苦悩は複雑に深まったと思います。　あらゆる分野の急速な進歩発展に目をみはり、理解も想像すらも及ばず、私は呆然と傍らに坐りこんでいるだけなのですが、時として奇妙な感覚に襲われます。　私たちのこの進歩発展は、いつか人知をこえてしまうかもしれないという、嘔吐してしまいそうな身がもたないような感覚です。　先の友人は、キリスト教徒ではないのに、長年の付き合いのゆえにすっかりそれっぽくなってしまったのですが、私によく言うのです。「あなたキリストに出会う日は案外近いよ。ほんとうに希望の日だといいね」

昔のことになります。

ご指導いただいていた神父さまが、石川啄木の歌を示してくださったことがありました。

「底知れぬ謎に対ひてあるごとし　死児のひたいにまたも手をやる」

自分の惨めさを覆う神のあわれみの愛を信頼して身を委ねることの導きとも重なって、深く心に刻まれています。

底知れぬ謎、神秘に相対する畏れの気持ち、崇敬、思慕の気持ちは、人間としての私たちから消えることはないはずです。

神さま、あなたがおられるからです。　あなたのみ顔を隠さないでください。

いのちの言葉　9月

一切はあなたがたのもの、
あなたがたはキリストのもの、
キリストは神のものなのです。

（1コリント　3・21－23参照）

この言葉はコリントのキリスト者共同体への手紙の中に出てくるものです。コリントの共同体はとても生き生きしており、様々なカリスマを持つ指導者たちの率いるグループに支えられ、積極的な教会でした。同時に、信者同士やグループ間での摩擦による分裂や支配欲、特定の人への崇敬なども生まれました。そこにパウロはきっぱりと介入し、次のようなことを書いています。「この共同体は賜物に富み、多様な指導者たちもいますが、思い出してほしい。皆を一つに結ぶのは、もっと深い絆、つまり、すべてのものは神に属しているということだ」と。

ここから読み取れるのは、神は私たちと共におられる、というメッセージです。私たちはもはや、自分以外に頼る者のない、迷える孤児ではありません。私たちは神の子、神に属する存在なのです。神は父親のように、誰も何も欠かすことがないように、一人ひとりの面倒を見て下さり、あふれるほどの愛と賜物を与えて下さいます。パウロが言うように「世界も生も死も、今起こっていることも将来起こることも。一切はあなたがたのもの」であり、神は御子イエスさえも、与えてくださいました。

どれほど限りない信頼を、神は私たちに寄せておられることでしょう。反面私たちは神からの贈り物を、どれほど身勝手につかっているでしょうか。神が造られたものを自分のものであるかのように扱って破壊し、兄弟姉妹たる人々をまるで所有物のように奴隷化し、虐殺さえします。自らの生をぞんざいに扱い、自己陶酔と堕落の内に台無しにしてしまっています。

「一切はあなたがたのもの」という神の限りない贈り物に対して、私たちに求められるのは感謝の心です。よく私たちは、あれがない、これがないと不平を言い、お願いをするときにだけ、神にすがったりしています。なぜもっと周りに目を向け、どれだけ善いもの、美しいものに囲まれているのか知ろうとしないのでしょうか。なぜ、日々神が下さるものに感謝しようとしないのでしょうか。

「一切はあなたがたのもの」ということには責任も伴います。私たちに委ねられているこの世界と一人ひとりの人間に対し、思いやり、優しさ、配慮が必要です。「あなたがたはキリストのもの」なのですから、イエスが私たちにされるように心をくばり、「キリストは神のもの」ですから、御父がイエスにされるように配慮することが、私たちにも求められています。

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きましょう。人々の嘆きや分裂、苦しみや受ける暴力を、自分のものとして迎え入れ、共に担い、愛に変えていくところまで寄り添いましょう。
私たちに一切が与えられたのは、それらを、豊かないのちであるキリストのもとに、究極の目的である神のもとに、連れて行くためです。こうして、すべての被造物が生来の尊厳と存在意義を回復することでしょう。

1949年の夏のある日のこと、キアラ・ルービックは神との神秘的な体験をしました。花嫁と花婿のように、キリストに結ばれる特別な一致を感じたのです。花嫁としての「持参金」は、被造物のすべてをキリストに持って行くことであり、花婿キリストからは天国が遺産として与えられるとキアラは感じました。その際彼女は「求めよ。わたしは国々をお前の嗣業とし、地の果てまで、お前の領土とする」という詩編（2・8参照）の一節を思い出し、こう記しています。「私たちはそのことを信じて願い、キリストは私たちにすべてを与えてくださいました。私たちはそれを彼のもとに持って行き、彼は私たちに天をくださるでしょう。私たちが捧げるのは被造物、キリストがくださるのは天国です。」

キアラはフォコラーレ運動を自分自身の姿に重ね、晩年にこう記しています。[1]
「私の人生最後の望み、それは、世の終わりに、この運動が完成され、見捨てられ復活されたイエスのみ前に立つのを待ちながら、彼にこう言うことです。『私の神よ、あなたに呼ばれるその日、私はあなたのもとに参ります。世界を私の腕に抱えてあなたのもとに行く、という無謀な夢を携えて、私は参ります』[2]。」

ファビオ・チャルディ神父

＊2016年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い
関東　9月11日（日）13：30～ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
（週日に、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも）
中部　9月11日（日）14：00～　瀬戸市みずの坂サポートハウス「ゆうや」
長崎　9月25日（日）14：00～　浦上教会要理教室「みことばの分かち合い」
＊詳細は各フォコラーレ・センターまで

連絡先：フォコラーレ東京 03-3707-4018/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp
ホームページ：conil157ch1.wix.com/focolare-jp

1 『Il grido（叫び）』p. 129-130　チッタノーバ出版（ローマ、2000年）
2 ジャック・ルクレール（フランスの神学者）の言葉。

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
・CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO・

<< **Communications**（時事通信）>>　　2016年7月10日

会憲に関する諸会議

インドでは、テレジア的カルメル会の七つの管区が、タミルナドゥのコタギリの祈りの家に集まり、会議を開催しました。この会議は、2015年のアヴィラ総会議後、全カルメル会によって始められた会憲（訳注：男子カルメル会の会憲）再読の方針に沿って、会憲について考察するために、総長顧問のヨハネス・ゴラントゥラ神父により召集されました。

会憲の各章は、次のような仕方で、集会によって研究されました。まず最初に、共同でテキストが読まれ、研究されました。この後、各テーマに関する専門家によって、二つの講演が行われました。夜には、講演者によって準備された質問を口火に、共同で討議が行われ、そこから諸提案がなされました。

毎日、ミサ聖祭と教会の祈りが捧げられ、この会議を霊的に活性化してくれました。
全体のプログラムと総合的な解説は、英語の次のリンクで見られます。
https://drive.google.com/open?id=0BwJEzzuh4mb7QXczWnBDbuF3VjA

同様に、ドイツ管区では、今や伝統となった生涯養成週間が、ビルケンヴェルデルのカルメル会霊性センターで、聖霊降臨後の週に行われました。二つの主要な課題が話し合われました。ひとつは、総会議の方針に従って会憲を見直すこと、もうひとつは宗教改革の開始（1517年10月31日）から500周年を迎えたのを機に、マルティン・ルターについて考察することです。

管区長は、会憲の目的と重要性に関する講演によって、課題を紹介しました。ベルリンから二人のカルメル会のシスターが、1991年の女子カルメルの会憲について発表しました。またカルメル在世会の管区長代理は、OCDSの会憲の始まりから発展の過程での労苦について話しました。共同の話し合いでは、興味深い意見の分かち合いがなされ、全員が、男子や女子の会憲は、表現や修道生活の神学やカルメルのアイデンティティーについて改訂の必要があるということで一致しました。私たちは、カルメルの三つの枝（訳注：男子カルメル・女子カルメル・カルメル在世会）のために、カルメルの召命に共通の諸要素を提示する、共通のテキストが著されることを望んでいます。

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

《 **Communications**（時事通信）》

10//07//2016

Formation of the Carmelite nuns and the centre of the Order

Paying attention to the petition made by our Carmelite sisters during the 2015 Avila General Chapter, in which they were present on May 19 and 20, the center of the Order is in the process of reflecting on the formation of the Discalced Carmelite nuns, for the purpose of drawing up a concrete plan for it in agreement with them.

Important milestones in the journey already begun, besides the meeting on last February 3, have been the meeting of the group of friars who advise the Definitory, which took place in Rome from the 1st to the 3rd June, as well as the recent meeting of Fr General with more than 135 nuns from Spain – which also included some nuns from Portugal – which took place in Avila from the 14th to the 18th of last June. Fr Saverio attended the meeting accompanied by the Vicar General, Fr Agustí Borrell, Fr Daniel Chowning the Definitor appointed for the nuns, as well as Fr Rafal Willkowski, the Secretary for the Nuns.

In the following link you can find the texts of Fr General's conferences in Spanish (also available in Italian). Also available for everyone on the page are all the audios and videos of these conferences:

https://drive.google.com/open?id=0BwJEzzuh4mb7M2F0c2pDMzdTQmc

Around the same time, Fr General joined the Lombardy Association in their triennial assembly from the 26th to the 29th June and shared also with them the steps taken in this respect.

糸巻き棒からペンへ(12)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

貴族たちと共に、商業をまかせられていたブルジョワ階級――その多くはユダヤ人の子孫でした――は、経済力を独占していました。。ところが、この（第二の）階級には、政治的な仕事や名誉称号の大部分が拒否されていました。それゆえ、彼らの大きな憧れは、貴族階級に組み入れられることで、しばしば莫大なお金によって郷士の身分が買い取られました。テレジアの家族もこの例に当たります。

聖職者と修道者は、大きな階級を形成し、人口の 10%と 20%の間を変動していました。彼らの間には、社会の他の階級と同じような分裂がありました。高位聖職者は、利子（賃貸料）と不動産の管理に専念していましたが、大多数の司祭や女子修道院や多くの男子修道院は、生活必需品を得るための困難を、民衆と分かち合っていました。テレジアは、心から司教や修道者や司祭たちを尊敬しています。彼女は彼らを、「教会の役人」としてではなく、キリスト教徒の「隊長」として、またキリストの「守護者」として見なしています（『完徳の道』3, 1-2)。

大衆である農民と労働者の大半は、無学で、日の出から日没まで働き、その労働の実りでかろうじて生き延びていました。旱魃の時や、何らかの理由で基本的な生産物の値段が高騰した時には、筆舌に尽くしがたい窮乏を味わっていました。

「きわめて貧しい人々」は、特別な社会的カテゴリーを形成していました。財産を持たず、それを獲得する可能性もなく、頼るべき家族もないことを証しした後で、この階級に入りました。それによって、無数のコフラディア（信徒の慈善団体）やその時代の社会福祉的修道会が行なっていた何らかの社会的な援助を期待することができました。

「名誉」

その時代の第三の特徴は、「栄誉」や「名誉」に対する特殊な感覚です。これが、その時代のあらゆる活動や願望の究極的な動機でした。その時代には、名誉は諸徳を所有することではなく、他人の意見の反映のように理解されていたのです。したがって、社会から名誉を受け取った人に敬意が払われ、何らかの権利を認められた人が尊敬されたのです。「名誉あること」は、「誠実であること」と同一視されました。「名誉」は、「評判」や「名声」と同義語でした。「名誉」を受け取った人、一連の権利を認められた人は、「名誉ある人」とされ、その振る舞いがどのようであるかはまったく不問に付されました。　（九里訳）

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

上野毛霊性センター　2016年4月～2017年3月

黙想企画　＊＊上野毛聖テレジア修道院（黙想）＊＊

１．祭日のミサに参加するために

【クリスマス】　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

２０１６年１２月２４日(土)～２５日(日)朝食《講話なし、夕食なし》

２．日帰り一日黙想会　　１３時３０分～１６時　　福田正範神父

[聖人たちを支えた神のことば]

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」（啓示憲章６章２５）信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

２０１６年

９／８（木）、９／１６（金）、１０／２８（金）、

１１／１１（金）、１１／２４（木）１２／９（金）、１２／２２（木）

２０１７年

１／１２（木）、１／２７（金）、２／９（木）、２／２４（金）、３／９（金）

３／２４（金）

＊申し込みは、３か月前より受付致します。

３．奉献生活者のための黙想会

２０１６年

１０月１３日（木）１８時～１０月２２日（土）朝　　福田正範神父

１２月２７日（火）１８時～２０１７年1月５日（木）朝　　福田正範神父

４．青年黙想会(男女)

２０１６年

１１月２６日（土）１６時～２７日（日）１６時

５．召命黙想会(男女)

２０１６年

１０月８日（土）１６時～１０日（月）１６時

６．聖週間前の黙想会　　福田正範神父

２０１７年

３月　１８日（土）１８時夕食～２０日（月）１６時

７．特別黙想会　　Ｓｒ．伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）

２０１６年

１０月２８日（金）２０時～３０日（日）１６時

電話でのお問い合わせは午前 9 時から午後 4 時 45 分までにお願い致します。

間違いを避けるためなるべく FAX・はがき・Ｅメール等でお願いできますならば幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25

Tel：(03) 5706-7355　　Fax：(03)3704-1789

Ｅメール：mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ：http：//www.carmel-monastery.jp

＊＊＊＊＊＊日帰り黙想会＊＊＊＊＊＊

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。
「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章６章２５)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

＊企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。
午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前１０時～ご利用が可能です。
昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。
費用：午後からのご参加・・・・￥２０００、午前からのご参加・・・・￥３５００

日時：　2016 年　９月　８日（木）　午後１時３０分～午後４時

９月１６日（金）　〃

１０月２８日（金）　〃

１１月１１日（金）　〃

お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
〒１５８－００９３　東京都世田谷区上野毛　２－１４－２５
ＴＥＬ．０３－５７０６－７３５５
ＦＡＸ．０３－３７０４－１７８９　Ｅメール：
Ｅメール：mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会　≪わたしは神をみたい≫

2016年10月28日（金）20:00 ～ 30日（日）15:00

諸聖人たちとともに

神のいつくしみのまなざしのもとに
しばらく静かなひとときを 過ごしてみませんか

たとい何一つ主にささげることが できないように感じられても、
何もないというそのことを おささげしましょう。

聖テレーズ

わたしたちの神を
知らねばなりません。
わたしたちの心を開き
神のうちの
おろかなまでの愛を
信じなければなりません。

福者マリー・エウジェンヌ

わたしの一生に 太陽が
さんさんと注いでいたのは
「心の深みに住まわれる神」と
親しくしていたからから
でした。

三位一体の聖エリザベット

- 指　導：　伊従　信子　（ノートルダム･ド･ヴィ会員）
- 持参品：　新約聖書、『いのりの道をゆく』聖母文庫、聖母の騎士
- 参加費：　￥１２０００
- 場　所：　カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
  158－0093　東京都世田谷区上野毛２-14-25　Tel 03-5706-7355
- お申込み：ＦＡＸ：03－3704-1764　Ｅメール：mokusou@carmel-monastery.jp
  または、ハガキにてお申込み下さい。

カルメル召命黙想会

赦しの恵み

日　時　：　１０月８日（土）１６時　～　１０日（月）１６時
場　所　：　カルメル会上野毛　聖テレジア修道院（黙想）
対　象　：　召命を考えている、独身の青年男女（４０歳まで）
定　員　：　２０名
費　用　：　一般　１０，０００円　　学生　７，０００円
締　切　：　１０月１日（土）＜必着＞
指　導　：　福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・ＦＡＸ・E-mail の何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093　世田谷区上野毛2－14－25
カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
電　話：　０３（５７０６）７３５５
ＦＡＸ：　０３（３７０４）１７８９
E-mail：　mokusou@carmel-monastery.jp

奥村一郎選集

追悼　奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも本体 2000 円+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻　慈悲と隣人愛　解説・西村惠信
日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。
カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における霊的修行

第2巻　多文化に生きる宗教　解説・橋本裕明
宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。
大いなる賭け――宗教対話／日本人とキリスト教――遠藤文学の魂

第3巻　日本の神学を求めて　解説・小野寺 功
日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。
日本の神学――根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい掟

第4巻　日本語とキリスト教　解説・阿部仲麻呂
関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。
日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻　現代人と宗教　解説・鶴岡賀雄
宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っていけるのか。
現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻　永遠のいのち　解説・八木誠一
生と死、罪と恵み、正義と愛――人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。
嬰児復帰／人間の栄光と悲惨／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻　カルメルの霊性　解説・高園泰子
愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。
アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻　神に向かう〈祈り〉　解説・高橋重幸
東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。
考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻　奉献の道　解説・宮本久雄
すべての人にみずからを与えつくす奉献生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。
清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンス宗教研究所　〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5
ＴＥＬ：03-3322-7601　ＦＡＸ：03-3325-5322
ホームページ：http://www.oriens.or.jp/

２０１６年　　黙　想　会　案　内

（宇治カルメル会）

【一般のための黙想】

・１泊２日（午後５時～午後４時）

9月 10日（土）～11日　　人生の実りを思いめぐらす　　中川博道神父

【聖書深読黙想会】

・１日（午前10時～午後４時）

9月 10日（土）　　10月22日（土）　　中川博道神父

【水曜黙想】

（午前10時～午後４時）

9月21日（水）　神のいつくしみとエディット　シュタイン　　松田浩一神父

10月19日（水）　神に愛されている喜び　　シスタ-ロサ

11月16日（水）　いつくしみの御母、聖マリア　　松田浩一神父

【キリスト教霊的同伴】

（金曜日：夕食なし）午後８時～午後３時まで

9月 2日～ 3日（土）　　10月21日～22日（土）　　松田浩一神父

11月11日～12日（土）　　12月 2日～3日（土）　　松田浩一神父

【待降節の黙想】

12月10日（土）～11日（日）　夜露のように静かに訪れる神を待つ

（午後５時～午後４時）　　中川博通神父

【聖テレーズの黙想】

9月30日（金）～10月１日（土）　　伊従　師

（午後５時～午後４時）

【一般のためのカルメルの霊性セミナ-】

10 月 14 日（金）～15 日（土）イエスの聖テレサの霊性　　松田浩一神父
（午前１０時～午後４時）

12 月 13 日（火）～14 日（水）十字架の聖ヨハネの霊性（2）松田浩一神父
（午後５時～午後４時）

【奉献生活者の黙想】
（午後５時～午前９時）

12 月 27 日（火）～1 月 5 日（木）　　松田浩一神父

【English Retreat】

11 月 26 日（土）　　Maranatha-Come Lord Jesus シスタ.-ロサ
（10am to 4pm）

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】　　チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１：３０

12 月 24 日（土）～12 月 25 日（日）　　{講話なし、各食事つき}

'ーその他皆さまが企画なさったグループ黙想会,個人黙想も歓迎いたします。ー

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけ FAX、はがき、E メールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前９時～午後５時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

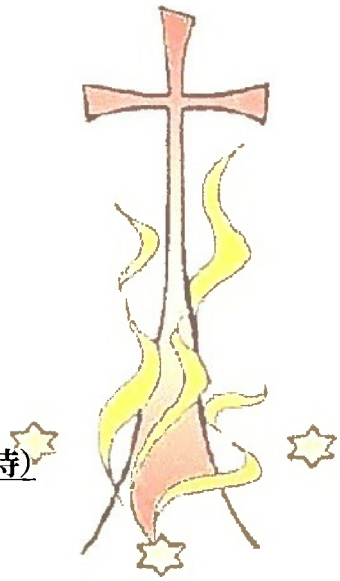
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016，　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人のための霊的同伴』
―日常のキリスト教霊性を求めて―

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴（スピリチュアル・コーチング）**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、キリストと各人との人格的交わりを深めるものでありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点（**霊的理解**）を促進しますので、この静かな一時の中で短い**個別同伴**（一人 30 分）を行います。
- メソードの一つとして**スピリチュアル・コーチング**を適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにした祈りのひと時です。



【参加者人数】　6 名

【開催日】　2016年　2月19日（金）～20日（土）　終　了
3月18日（金）～19日（土）　終　了
6月　3日（金）～　4日（土）　終　了
7月　8日（金）～　9日（土）　終　了
9月　2日（金）～　3日（土）
10月21日（金）～22日（土）
11月11日（金）～12日（土）
12月　2日（金）～　3日（土）
（毎回金曜日　20 時（夕食なし）～土曜日 15 時）

【参加費】　各回 6，500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父（カルメル会士）

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院（黙想）へ FAX、はがき、E メールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39－12
カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）
Tel　0774－32－7016、Fax　0774－32－7457
E-Mail：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

いつくしみの特別聖年：聖テレーズの黙想会

2,016 年 9 月 30 日（金曜日）午後 5 時――10 月 1 日（土曜日）午後 4 時

テレーズの命日（9 月 30 日）、祝日（10 月 1 日）に

わたしは死ぬのではありません

命にはいるのです！

テレーズとともに

静かなひと時を過ごしませんか

わたしの使命がはじまろうとしています。
　　人々に　神様を愛させる使命が・・・

神さまがわたしの望みをかなえてくださるなら
天国にいながら
　　わたしは世の終わりまで、
　　地上の人々を助けることになります。

指導：　伊從　信子
場所：　カルメル会　聖テレジア宇治修道院（黙想）
　　６１１－００２２　　宇治市木幡御蔵山３９－１
持参するもの：　新約聖書、『弱さと神の慈しみ』（サン・パウロ社）
費用：　６，５００円
申し込み先：fax　０７７４－３２－７４５７，電話　０７７４－３２－７０１６
　　e-mail　teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

カルメル会シスター　三位一体のエリザベト
10 月 16 日（日）列聖おめでとう!!

列聖記念ミサへのお誘い

場所　：男子跣足カルメル修道会宇治修道院（京都）

日時　：11 月 5 日（土）AM10:00 から

ミサ後、三位一体のエリザベトの列聖記念小話を致します。

参加者：三位一体のエリザベトに関心のある人

スケジュール

AM10:00～10:45　ミサ
AM11:00～11:40　小講話

費用　：自由献金

司式・講話　：松田浩一　神父（カルメル会士）

男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
男子跣足カルメル修道会宇治修道院
TEL 0774-32-7456
FAX 0774-32-7457
teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

《 名古屋一日静修 》

神のいつくしみに学ぶ

—特別聖年を迎えて—

１．日 時：　９月１９日（月）：　**「いつくしみの泉である教会」**
今泉　健神父
１１月２３日（水）：　**「神のいつくしみの生きた証人となれ…**
（福者フランシスコ・パラウと他）」
Sr. ポーリン・フェルナンデス（カルメル宣教修道女会）
場 所：カトリック日比野教会　信徒会館
（地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約５分）

１．　参加費：１０００円
２．　持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
３．　プログラム
10：00　導入の祈り（聖堂）
10：20　第一講話（信徒会館）
11：20　念祷 ① 赦しの秘跡または面接
12：00　昼食（信徒会館）
12：30　念祷 ②　赦しの秘跡または面接
13：00　第二講話
14：00　念祷 ③
14：30　ミサ（聖堂）
15：30　茶話会（信徒会館）
16：00　終了の祈り
４．　申し込み：下記いずれかの方法でお申込み下さい。
FAX／0568 - 62 - 5167
mail／seisyuu_2015@yahoo.co.jp
ハガキ／〒484-0076 犬山市橋爪一丁田 1－26
「名古屋一日静修」係

《一日静修特別黙想会》

日時：2016 年 12 月 3 日（土）午後 5 時受付～4 日（日）午後 4 時
場所：宇治聖テレジア修道院（黙想）
テーマ：「神のいつくしみに気づく」
指導司祭：九里　彰神父
＊　どなたでも参加できます。
申し込み：同上の「名古屋一日静修」係へ。
申し込み締切：11 月 26 日（土）

〈カルメル修道会主催　名古屋カルメル在世会協賛〉

霊性センター

毎月第一日曜日　三馬教会　聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会　聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ　レジナ　終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921-8162

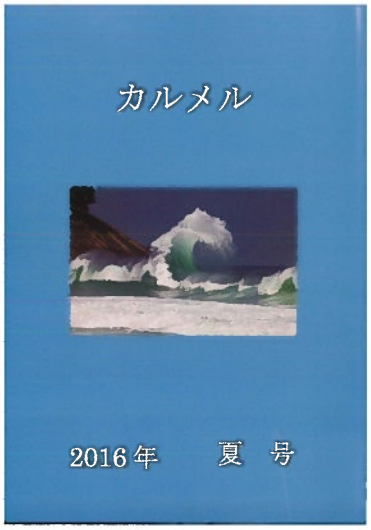
金沢市三馬 3 丁目 324 番地

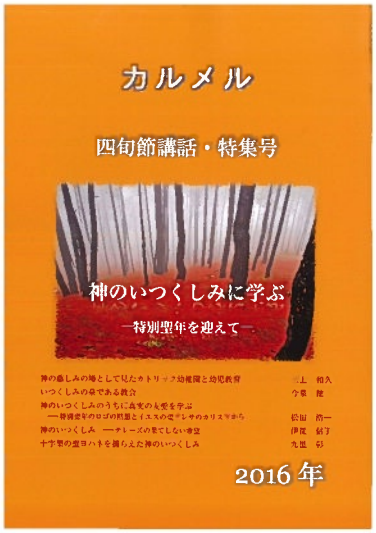
カルメル会　三馬修道院

三上　和久神父まで

Tel　076-244-7788

「カルメル」
今日の霊性・夏号
今日の霊性・特集号





2016 夏 No.361　　2016 特集号

目次

神の慈しみの場として見たカトリック幼稚園と幼児教育　三上和久　2
いつくしみの泉である教会　今泉健　12
神のいつくしみのうちに真実の友愛を学ぶ
――特別聖年のロゴの黙想とイエスの聖テレサのカリスマから　松田浩一　26
神のいつくしみ
――テレーズの果てしない希望　伊従信子　38
十字架の聖ヨハネを補らえた神のいつくしみ　九里彰　50

目次

《今年の特集　いつくしみの特別聖年》

「いつくしみの特別聖年」を迎えて　(2)　九里彰　3
「いつくしみの特別聖年」の意義について　(2)
聖パウロが体験した神のあわれみと現代社会のありかた　田畑邦治　9
いつくしみの秘義を生きる　(2)　須沢かおり　16
神のいつくしみ深い愛とテレーズ　(1)
――神のいつくしみ深い愛に身をささげる　伊従信子　24
「いつくしみの特別聖年」にあたって
見捨てられた子供は幼いイエス　中山眞里　33
風に吹かれて　(8)
物あふれ心さまよう――流行とは　原造　39
マリアの信仰　(2)　ポーリン・フェルナンデス　42
神が慈しまれた道　(10)　奥村一郎　50

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。定価は、一冊４６０円です。
（サンパウロ、ドンボスコ書店、イグナチオ教会案内所、
上野毛教会の信徒ホール本コーナー、カルメル会上野毛修道院黙想の家等）

- 送付ご希望の方は、６００円【内訳　４６０円（＋送料１４０円）】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費（年５冊：春夏秋冬号・特集号【４６０円×５＝２，３００円】＋ 送料【７００円】計　３，０００円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：００１９０－４－１９５４５７　跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。ＴＥＬ（０３）５７０６－８３５６

宇治聖テレジア修道院（黙想）の「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。**その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。**よろしくお願いいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：７２０５８０５
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：５６８４５３９１
名義：男子跣足カルメル修道会

男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062　愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-571-1558　Fax:　052-681-6445

諸所の企画案内

心のいほり　内観黙想センター
真命山　霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、 開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。 電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572－0001 大阪府寝屋川市成田東町3－27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
http://www.com-unity.co.jp/naikan (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2016年予定

N1 02/26（金）-03/03（木）滋賀唐崎・ノートルダム
N2 05/07（土）-05/13（金）滋賀唐崎・ノートルダム
K1 06/13（月）-06/19（日）東京・小金井・聖霊会
K2 10/01（土）-10/07（金）東京・小金井・聖霊会
N3 10/20（木）-10/26（水）滋賀唐崎・ノートルダム
K3 12/05（月）-12/11（日）東京・小金井・聖霊会

2017年予定

N1 05/07（日）-05/13（土）滋賀唐崎・ノートルダム
N2 10/10（火）-10/16（月）滋賀唐崎・ノートルダム

真命山　2016年 － 祈りの集いのご案内

年間のテーマ

イエスとの出会い

その喜びを味わう

（レクティオ　ディヴィナ）

2016年度行事のご案内

祈りの集い(10時~15:00時)

1月14日　イエスの誕生 (ルカ 2:1-14)

2月11日　アンデレ (ヨハネ　1:35-43)

3月10日　ニコデモ (ヨハネ 3:1-8)

4月14日　トマス (ヨハネ　20:19-28)

5月12日　イエスの愛する弟子 (ヨハネ 21:1,-7)

6月09月　ザアカイ (ルカ 19,1-9)

7月14日　サマリアの女 (ヨハネ 4:6-30)

8月　休み

9月08日　ベトザタの病人 (ヨハネ 5:1,-18)

10月13日　マグダラのマリア (ヨハネ 20:11-16)

11月10日　フィリポ (ヨハネ 14:7-14)

12月08日　ペトロ（ヨハネ 21:15-19)

指導者: フランコ神父

⌘ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7
☎ 0968.85.3100
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内　２０１６年～２０１７年

●キリスト教入門講座
金曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座
毎月第1・第3・第5火曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー　下記（予定）の土曜日：
9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2016年度：倫理と霊性の基礎づけII近代・現代
夏学期：9/3, 9/10, 9/17
冬学期：10/1, 10/8, 10/15, 10/22, 10/29, 11/5

●ミサ
水曜日 17時10分－18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

●黙想
・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分－20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月9日、12月27日は休み。
8月23日は、上智大学内クルトゥルハイム2F聖堂。
・「お昼の黙想」 毎月第1・第3火曜日 10時40分－12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月2日、11月1日は休み。
・「水曜日ミサ後の黙想」 18時－18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。
・「通う霊操」 8月20日(土)－8月28日(日)
18時－20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂
・「黙想会」
6月18日(土)10時－19日(日)14時(上石神井)、11月19日(土)－20日(日)(上石神井)、2017年2月18日(土)－19日(日)（上石神井)、1泊2日、7,000円位。申込の締切りは、初日の8日前。
[関西] 9月24日(土)13時30分－25日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中).

●祈りの集い
・下記の土曜日 13時30分－16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
2016年
8月6日、9月10日、
10月1日、11月12日、12月3日
2017年
1月14日、2月25日、3月11日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分－16時50分

●坐禅会
・月曜日、木曜日　17時45分－20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。(祝日、5月2日、8月全体、10月31日、12月26、29日は休み)

●坐禅接心
10月30日(日)　20時20分—11月3日(木)　8時30分
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。
[関西]
宝塚黙想の家。事前の申込み要。
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会
下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時－18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
10月15日(土)、 2017年1月29日(日)。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座　2016-17年
日時　毎週金曜日
18時45分～20時30分

9/2　聖書のイエス像― ヨハネとパウロの見たイエス
9/9　○休み
9/16　イエスの復活― 今に生きるイエス
9/23　聖霊― 神の愛に導かれる
9/30　祈りの本質とさまざまな祈り方― 神と関わる
10/7　洗礼と堅信― イエスに結ばれて生きる
10/14　教会の成立と意味― イエスを中心に集う
10/21　人間としてのイエス― 新しい人間像の基礎づけ
10/28　御子としてのイエス― 神との関係
11/4　父と子と聖霊― 神の生命に与る
11/11　信仰の決断― 支えられて生きる
11/18　ミサ祭儀― 神への奉仕と生活の糧
11/19-20 ●黙想会（上石神井）
11/25　自己実現と神の意志― 生き方の規範
12/2　人間の弱さ― 罪とは何か
12/9　恵みとゆるし― 神の憐みを受ける
12/10　◆クリスマス・パーティ（16時ミサ、17:30パーティ、岐部ホール4階404,要申込み）
12/16　愛の心― キリスト教の本質
12/23　◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
12/25　●クリスマスの黙想(18時50分-20時10分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)
1/6　隣人愛― 他人の内にイエスに出会う
1/13　希望を持つ勇気― 未来に向かって歩む
1/20　霊の動き― 福音による生き方
1/27　秘跡と教会生活― 毎日を支える信仰
2/3　神の言葉― 神との日常的な対話と黙想の仕方
2/10　結婚と独身― 愛の道
2/17　信徒・司祭・修道者― 誰もが召されている

キリスト教理解講座　2015年
日時　第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

［イエス］
9/6　神の国 ―― イエスの使信
9/20　根本たる愛 ―― 律法の完成と克服
10/4　受難による救い ―― イエスの救済的役割
10/18　死からの命 ―― 復活の認識・経験・理解
11/1　○休み
11/15　キリストはだれか ―― キリスト理解の発展
11/19-20　●黙想会(上石神井)
11/29　御子の受肉 ―― 神の子と人の子

［聖霊］
12/6　神の内的現存 ―人間における聖霊の働き
12/10　◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404;要申込み)
12/20　三位一体の神 ―― 救いの構造から神内の存在へ
12/23　◆クリスマスのミサ(14時、クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
12/25　◆クリスマスの黙想(18時50分－20時10分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂)

［教会］
1/17　信仰者の共同体 ―― 教会の本質
1/31　救いのしるしと実現 ―― 秘跡の意味
2/18-19 ●黙想会(上石神井)

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）
信徒会館3階
アルペホール　TEL　03・3263・4584
クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102－8571　千代田区紀尾井町7－1
上智大学SJハウス
電話　03－3238－5124（直通）　－5111（伝言）
Fax　03－3238－5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い
カルメルの霊性に学びつつ、
キリスト者としての霊性を養うための
沈黙の祈りで構成された集いです

東京　いつくしみの特別聖年を生きる：
9月17（土）午後２時～午後５時30分
「神のいつくしみ　と　テレーズ」
講話：伊従信子
祈り・質問・分かち合い
参加費　　２００円

～～～

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。　http://sadhana.jesuits.or.jp/

★申込み受付・・開始日の８日前で締切ります

コース	日　時	指導者	開催場所	申込み
サダナⅠ	9/16(金)9:30-19(月)16:00	Fr植栗 Fr アレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク TEL082-239-0034
サダナⅡ	9/21(水)17:30-25(日)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会東京修道院(東村山市)	若山美知子※ Tel＆Fax 03-5918-9870
サダナⅡ	10/6(木)17:30-10(月)16:00	Fr植栗	女子御受難会修道院 (宝塚市)	大倉元子 Tel 078-811-2706
入門A	10/16(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
リピーターの会	11/3(木)12:00-11/5(土)16:30	Fr植栗	浜松(旧)聖ベルナルド修道院(浜松市北区)	若山美知子※
入門B	11/27(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
フォローアップ	12/4(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子　　Tel＆Fax ： 042-325-7554

◆サダナⅠ（入門Ａ．Ｂ．Ｃ）

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナⅡ

Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ　・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門Ｃ・・・入門Ａまたは入門Ｂを終えた方。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所 在 地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3－1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-ﾒｰﾙ： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交 通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日 程：

A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。
① 2016年 5月 6日（金）～ 5月14日（土）
② 8月14日（日）～ 8月22日（月）
③ 10月19日（水）～ 10月 27日（木）
④ 12月27日（火）～ 2017年1月 4日（水）

B. 祈りの体験：週末3日間 （金曜日の夕食～日曜日の昼食）
【神との親しさの中で日常を生きるために】
① 2016年 2月 5日（金）～ 2月7日（日）
② 2月26 日（金）～ 2月28日（日）
③ 3月 18日（金）～ 3月20日（日）
④ 6月17日（金） ～ 6月19日（日）
⑤ 7月22日（金）～ 7月24日（日）
⑥ 9月16日（金）～ 9月18日（日）
⑦ 11月18日（金）～11月 20日（日）

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2016年 5月30日（月）～ 6月7日（火） 中川博道 師 （ｶﾙﾒﾙ会）

◎ 対 象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、 ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1）氏名(ﾌﾘｶﾞﾅ) 2）住所 3）電話番号 4）希望日程(番号) を書いて郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やｸﾞﾙｰﾌﾟ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。 （但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

神のいつくしみを生きる

2016年度　青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月21日(土)～22日(日)	闇と光	山内十束師(ご受難会)
2	7月9日(土)～10日(日)	冬と春	山内十束師(ご受難会)
3	11月12日(土)～13日(日)	絶望と希望	山内十束師(ご受難会)
4	2月18日(土)～19日(日)	罪と恵み	山内十束師(ご受難会)

場所：　ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院
〒520-0106　滋賀県大津市唐崎　1-3-1
対象：　独身女性青年信徒
費用：　2,500円（一日参加も可）
申込み・問合せ：　*ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院　シスター桂川*

Tel ：　077-579-2884　Fax ：　077-579-3804
email: karainorind92@mbe.nifty.com

神のいつくしみを生きる

―絶望と希望―

2016年度　第３回　青年黙想会

日時：　11月12日（土）15：00 ～
13日（日）15：30 まで
場所：　ノートルダム唐崎修道院　（JR京都駅から30分）
指導：　山内　十束 師　（ご受難会）
対象：　独身青年女性信徒
費用：　2,500円
締切：　2016年11月6日（日）まで

〈申込み・問合せ〉
〒520-0106　滋賀県大津市唐崎　1-3-1
ノートルダム教育修道女会　Sr. 桂川
Tel ：　077-579-2884　Fax ：　077-579-3804
email: karainorind92@mbe.nifty.com

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室　１４：００～１６：００

【2016年予定】

~~3月17日(木)『霊の賛歌』第１回目：導入の講話（緒言と詩）~~ 終了
~~5月26日(木)『霊の賛歌』第２回目：はしがき・概要・注解~~ 終了
~~7月21日(木)『霊の賛歌』第３回目：第一の歌（2～12）~~ 終了
9月22日(木)『霊の賛歌』第４回目：第一の歌（13～22）
11月17日(木)『霊の賛歌』第５回目：第二の歌
12月15日(木)『霊の賛歌』第５回目：第三の歌

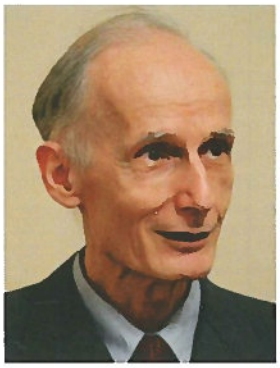
＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

九里彰神父（カルメル会日本管区長）

<<特別黙想会>>

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時
場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）
テーマ：「神のいつくしみに気づく」
指導司祭：九里彰神父
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛2-14-25
Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789
E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長（-2004）。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

霊性センターニュース

＊年間購読（郵送）のご案内＊

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から 12 月までとなります。
例：6 月申込の場合は、7 月号～12 月号（但し 8 月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250 円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等をご記入の上、
郵送か下記の e-mail でお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院　「霊性センター事務局」

《e-mail でのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。
＊何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。
Tel: ０３－３７０４－２１７１　Fax: ０３－３７０４－１７８９

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp
Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００１１０－４－２９７２５０

加入者名：　カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

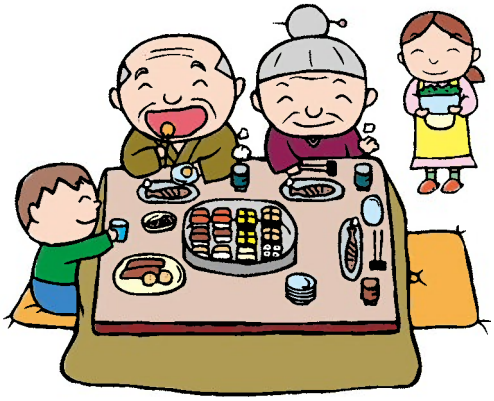
編集後記

先月、原爆投下はトルーマン大統領（1945-53）の決断なしに、軍部が遂行したとの TV 番組を見た。それによれば、大統領は女子供など一般市民を巻き込むことに反対であったので、軍部は広島を軍需施設だと偽り、強行したというものであった。莫大な予算を得て、マンハッタン計画を推進していた責任者の準将は、その威力を戦争終了前に是非とも議会に対し示しておきたかったようである。

二発目の原爆が投下された後、大統領はそれ以上の投下を禁止する命令を出した。この命令がなかったならば、後何発も原爆が日本に投下されていたことだろう。いずれにせよ、この直後、日本はポツダム宣言を受諾、無条件降伏する。

そこで、原爆はあの時、戦争を終結させるために必要であった、それによって無益な戦闘を避け、日米の多くの人々の命を救ったのだという言葉が出てきたようである。トルーマンは住民を皆殺しにする原爆投下の責任を強く感じていたため、この見解を生涯主張し続け、現在、多くのアメリカ人はこれを信じている。

Truman が true (真実な；誠実な、嘘偽りのない) man から来ているとすれば、Untruman 大統領ということにならねばよいが。　(P.九里)



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。
作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。
初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「１０月号」製本日　　９月２７日(火)　上野毛教会信徒会館ホール１階
午後１時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL　03・3704・2171